**与論島**

正式呼称、「よろんじま」とある。

鹿児島県大島郡与論町、県の最南端にあり、

南の海上５６３㎞、沖縄本島北端から２３ｋｍ、

面積２１ｋｍ２（長田区の２倍）、

人口５千のほぼ円状の島。

４月初旬の連続天気日を検索して、

４泊５日の島旅へ。

とにかく、きれい！

海　碧く、浜　芥なくゴミなく、

海浜や岸壁に付き物の浮遊物は見当たらず、

波打ち際に不快物なく、

道路に廃棄物なく、ここ日本？

きれいな海辺は処々にあるが、この島には

徹底したきれいさがあり、決して誇張ではない。

沖縄からも与論へ泳ぎに来ると言っていた。

エメラルドグリーンの海を誇るホテル、

そのビーチも季節のせいか数人の静かさ、

ホテル散歩路にはハイビスカスやブーゲンビリア、

だが、さらに外へ出て散歩すると、

刈り取られた後の、サトウキビ畑の殺風景さも、

これはこれで印象的。

この島にも例外がと善からぬ心で探したが、

訪ねた浜の全てが清潔の連続。

カメラ片手に探索し、ファインダを覗いていたが、

景色のよさと砂浜の美しさ綺麗さ清潔さ、

雰囲気のよさに圧倒され、

被写体を探し、

チマチマとシャッターを押すのがバカらしくなり、

写真箱は横に置き、風景が語りかける佳境を堪能。

このような心境になったのは、

写真を撮りだして初めての経験。

豊田市で大九州物産展

与論島の海産物出品者と言葉を交わす。

「きれいな島と海、ぜひに！」

「機会があれば」で名刺を渡されたのが３年前。

やがて、小生には宿題のようになり、

「男同士の約束」と勝手に思うようになり、

今回の旅となる。

前もって旅程を言うと彼（K氏）を拘束するので、

家内と突然の訪問とした。

レンタカーで晴天下、前も後ろも車のいない道路、

彼は出張中で、丁度帰社した社長が事情を聞き、

３家族を交えて、庭が交歓の場となる。

辞して、島めぐりを再開。

城跡や観光名所を訪ねたが、どこも

観光客はまばらである。

島内に、三色信号が一か所、赤点滅が一か所だけ。

車３台が連なると「渋滞」だそうで、

散歩もしたが、自転車、バイク、オートの人達が、

我々に会釈をされるので、こちらもその構えが必要。

滞在中、浦和、所沢、多治見、倉敷、

台湾の家族や旅行者と会話ができた。

皆さん、海や浜の美しさには同感、

日本なら、どこでも目立つ中国や韓国の旅行者は

飛行場でも、町の中心でも見当たらず。

こちらが気が付かないのか。

問題は、ホテル以外では、レストランも

ファーストフッド店もなく、呑み屋は夜商売で、

# 食べる楽しみはなく、珍しい経験。

やっと探し当てた「漁港の裏」を信用し、寿司屋に入る。

座敷で寝転がりマンガ？を読んでいた若いのが、

「いらっしゃい」と厨房へ。嫌な予感がする。

有名無名の色紙が壁にところ狭しと貼り付け。

結果は、不味い料理で盛り付けも貧相。

後で、ガイドマップで調べると、この店、

*与論一おいしくない店？*

*おすすめできる料理はございませんが、*

*これら食べずに与論島から帰るべからず。*

*営業時間：風の吹くまま気の向くまま、*

*休日：不定休*

とあり、宮沢賢治の世界のような正直な店である。

翌日もレンタカーで島内を探訪。

マップで「お食事処」とあり、たどり着く。

ツインの掘立て小屋で中暗く、

今時の後進国の辺境の食い物屋でも、

もっとましであり、頭が整理できない。

近くに自販機があるが、砂とホコリでポンコツ。

つり銭の出てくる保証はない。

空腹を抱え、ホテルへ戻り、売店で食料調達。

レストランは時間外でクローズド。

夜は、満天の星空で輝く星も大きい。

南十字星の上の３星が見えると聞いたが、

不慣れな夜空での識別は不可能。

旅をしておれば、天気は気になる。

鹿児島テレビのテリトリーだが、

「与論島」の画像も文字も出てこない。

ホテルの人（複数）に疑問を確認すると、

島人には、鹿児島県人の意識はなく、

沖縄でもなく、ここは「与論島」意識が強い。

近年、車は「鹿児島」ナンバーから「奄美」ナンバーへ。

島意識では、鹿児島よさらば！

乗用車は軽が大半で、中型も大型も見かけない。

車への塩害もかなりだそうで。

道路は中央分離線少なく、曲がり多く、慎重さ必要。

カーナビも東側中間部の海岸で作動しない地域あり。

寺崎（ティラサキ）海岸でアオサ採りの男性と会話。

７９歳で同年であり、抜けた歯で、与論島の歴史を熱弁。

話が簡単明瞭で要領よく、前身は知的職業に？

沖縄や島津に支配され、終戦で米軍に支配され、

米軍の兵隊には、チョコレートをもらい、

「B円」という米軍が発行するカネを

２０歳ごろまで使っていたとか。

話し好きらしく、こちらは聞き役にまわる。

書かれた情報にはないチャンスである。

米軍だからこそ、

沖縄や奄美諸島を占領したから返してくれたが、

ソ連が占領していたら「北方４島」のように、

返してくれなかったと飲み会で言い合うとのこと。

沖縄人は反基地運動をしているが、沖縄は

与論島と島人を苛め抜いた歴史があると言う。

彼のおかげで、「B円」を初めて知ったのと、

外部の者は、

南西諸島、奄美諸島、吐噶喇列島と気軽に探訪するが、

現地の島人の隣島や近島への島感情は複雑でもあり、

歴史の表と裏に踏み込み、

それを知るいいチャンスだった。

**島の人の誇り**

与論島意識が強く、王国が建国され、

「ヨロン・パナウル王国」であり、

パスポートも発行している。

町長が国王に就任しており、盛り上がっている。

独立記念日もある。いつかは聞き忘れた。

町の観光協会でパスポートを、所長から

当方は喜んで買わされた。

鹿児島県人でも沖縄県人でもないとの思い、

与論島人の意識は年齢者に多いと感じた。

男性同士の飲み会（与論献奉）で結束を確認し合う。

空港近くの西海岸に、

「ヨロン駅」（写真添付）とマップに表示。

ホテルから、寄り道往復で１６，０００歩。

鉄道はないが、海を見下ろす崖にあり、

フォームの駅名表示は、添付写真のように、

ヨロン駅

与論島

おきなわ　|　かごしま

わ

５ｍ長の線路に車輪が設置され、

沖縄と鹿児島を下位置に従え、島人の気分もそれなりに。

近くのレストランで島名物「モズク蕎麦」を味わう。

離島する７日から、「海開き」始まる。

観光客が島を汚さないことを願う。

ハブもマムシもいない与論島。

ベストシーズンは４月上旬から中旬。

帰宅すると、翌日K氏からLINEでメッセージ。

与論島へは再訪したい。

日本道路マップで見れば、失礼ながら、

与論島、吹けば飛ぶような小島、

しかし、日本も世界地図で眺めれば、

これまた、可愛いい小列島。

さらに、この人間世界も、宇宙から望すれば、

地球も芥子粒のようなもの。

美しき浜の砂を思い出しながらの想い。

とーとぅがなし

与論語でありがとうございます　よく耳にする。

一五大福